

# いじめは…心にも身体にも深い傷を残します



しつかり自分と向き合つて

大田区立大森第六中学校三年

關 實人

すべての人々は、生まれながら人間らしく幸せに生きる権利がある。その権利は誰も侵さないといふことはできないと、日本国憲法でも定められ、保障されているのだ。けれどもこの世の中には、人の数だけ差別があつて人の数だけ偏見もある。今でも、いじめや差別が後を絶たない。

初めていじめにあったのは、小学校三年生の時だった。何が理由かは分からぬが、突然面と向かつて「ウザイ」「キモイ」などと言われるようになつた。ある日、隣のクラスの男子が危険な行動をとつていたので、「危ないよ」と注意をする。「うるせえ、げじまゆ!」私の中でコンプレックスだ。そう言われたあくび給食の時間には、「お前と食べたくない」と言いながらあらみんなが避けていき、誰一人グループを作ってくれないし一緒に食べてくれる人もいなかつた。さらには、飲み終わつた牛乳を「お前がやれ」と言いながら投げつけてきたりもした。私は耐えきれず、その場に泣きくすぐれた。小学生の頃よりも少し成長した中学一年生の時、これもまた突然仲間はそれを見られた。クラス一体となつて無視をされ、みんなで輪をつくつて一人にさせたり、一番ひどいのはある掲示板サイトに私の名前とメールアドレスが載せられていた。私は一瞬おそろしくなつて背筋がぞつとしたようだ。

いじめにはリーダーのような人間がいて、みんないじめの標的になりたくないという思いから、リーダーに近づいて仲良くなり、リーダーの言うことは何でも行動するのであつた。遊び半分という軽い気持ちで、相手の気持ちなどは考えもしないのだろう。ただ相手が悲しんでいたり、辛そうな表情をみては樂しそうに笑つていた。実際にいじめを受けて、初めて心の傷の痛さを知つた。成長していくごとに人の前では涙を見せないようにならえていたが、家に帰ると気がゆるみ、ため込んでいた色々な感情があふれてくるのであつた。

小学校四年生の時、とても心に残る出来事がおきた。ある夜に親と家に向かって歩いていると一人のおじいさんが「サクラサクラ」と言しながら、その場からは動かず焦つて歩いていたのを話しかけてみると、「私の大切な盲導犬が突然どこかに走つて行つてしまつたんだ……」と黒のサンガラスから涙がこぼれているのが見えた。私はそれを見て（絶対に探してあげたい！）と思い、ここで待つてもらつよう言つて親と一緒に、盲導犬のサクラを探しが始めたのだ。夜だったので見つけるのは難しいと思ったのだが、あのおじいさんの顔を思い出すと、一秒でも早く見つけてあげたい！と不思議に強く思つたのだが、私は必死に走つて探し回つた。三十分間位探すと、ある公園の奥に元気そうな盲導犬を見つめた。私は嬉しくておじいさんのいる場所に戻り、報告をして犬を返したのだ。すると今度は嬉しそうな表情で「いやあ、本当にありがとう……」と言つて、また涙がこぼれたのが見えたのだつた。そんな様子を間近で見た私は自然と心が温かくなり、自分のことのようにとても嬉しくてたまらなかつた。

あれから五年、私は中学三年生。今でもいじめがないと言つたらうそになるけれど、減ってきたのは確かだと思う。いじめを受けたとしても自分の意見を言える人が増えてきたよ思う。人の感謝の気持ちが伝わると、自分もおだやかな気持ちになれるんだ、と実感した出来事だった。

時々、盲導犬サクラと一緒に楽しそうに歩くおじいさんを見かける。私はあの時、助けてあげたことによって困つた時はお互い様ということを学べたし、本当に良かったなと心から思う。人の感謝の気持ちが伝わると、自分もおだやかな気持ちになれるんだ、と実感した出来事だった。

あれから五年、私は中学三年生。今でもいじめがないと言つたらうそになるけれど、減ってきたのは確かだと思う。いじめを受けたとしても自分の意見を言える人が増えてきたよ思う。人の感謝の気持ちが伝わると、自分もおだやかな気持ちになれるんだ、と実感した出来事だった。

いじめをしてきた人には必ず自分にも返つてくる。いじめを受けている人は、負けないで立ち向かつてほしいと思う。いじめは普通に考えてありえないことであつて、いじめを受けている人にとって、本当に辛くて毎日が憂鬱で仕方なくて、精神的にも大変だし、全体がマイナスになつてしまつたのだ。やはり、自分がされて嫌なことは人にもしない。この単純な事を、まずは守つていきたいと思う。

私は最初、何も出来ない弱虫だったけれど、少しずつ変わってきたようだ。自分の意志をしつかりともち、周囲の人の気持ちを考えることの大切さを知つた。何よりも人間は障害を持っている。いない間にわざと助け合い、手を差しのべ合うことが重要だ。これからは、しっかりと向き合つて、素直な心で行動できるような人間になつていきたい。